

---

教職ライブラリ

# 生徒指導・ 進路指導論

編著

住本克彦

共著

新井 肇・伊藤美加・伊藤美奈子・井上直子・井上浩史・清水克博  
竹村景生・田中達也・仁八 潔・橋本雅子・長谷川 誠・平野 修  
松田 修・毛利康人・安田従生・山下敦子

---

建帛社  
KENPAKUSHA

## まえがき

本書発刊に際した現状において、児童生徒を取り巻く環境は急激に変化し、予測困難な時代を迎えている。そのような中、児童生徒一人一人が、自他の命を尊重し、「生きる力」「生き抜く力」をしっかりと身に付け、望ましい勤労観や職業観をもって、多様な人々と協働しながら様々な困難を乗り越え、次世代の持続可能な社会の担い手となることが強く求められている。こうした状況を踏まえた上で、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理するとともに、今日的な課題に対応していく目的で、「生徒指導提要」（文部科学省）が12年ぶりに改訂された。また、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省）「『キャリア教育』資料集 研究・報告書・手引編」（国立教育政策研究所）等において、キャリア教育の新たな方向性も示されてきた。本書は、上記の内容を反映した教職課程に係る「生徒指導・進路指導論」のテキストである。本書によって「生徒指導の意義」や「進路指導・キャリア教育の意義」等を見つめ直す意味は大きいといえる。

本書は、教育の現場を熟知した執筆者が各章を担当し、特に、「第8章 いじめ・暴力行為への対応」では、新井 肇氏（「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」副座長）に、「第9章 不登校とは」では、伊藤美奈子氏（生徒指導提要の改訂に関する協力者会議委員）に執筆いただいた。さらに、能登半島地震に際し、被災地の高等学校校長（当時）として陣頭指揮を執られた仁八 潔氏に「震災後の生徒指導・教育相談の実践」のテーマで、学校における生徒指導を中心にした防災教育のあり方について執筆いただいた。また、随所にコラム欄を設けて、生徒指導や進路指導に関する最新の知識を網羅し、各章の終わりには振り返りとして主体的・対話的で深い学びができる演習課題を設定している。「教職課程」を学ぶ学生には、順次読み進めることによって、教職に関する理論と実際を実践的に学ぶことができ、教育現場の教員にあっては、教職についての最新の知見に触れることができるように構成している。この点では、教員養成課程の教科書としてはもちろんのこと、教育現場における「生徒指導」や「進路指導」等での実践書としても有益であると自信をもって薦めたい。

また、本書へは、前 兵庫教育大学学長 加治佐哲也先生から身に余る巻頭のお言葉を頂戴した。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

教職を目指す学生の皆さんや、教育現場で日々熱心な実践を重ねる教員の方々が、本書を手に取り、改めて「生徒指導の意義」や「進路指導・キャリア教育の意義」等を見つめ直すことによって、より効果的な教育実践の一助になるよう願っている。

最後に、本書の編集にあたっては、株式会社建帛社社長の筑紫和男氏、編集部長の黒田聖一氏には多大なるご尽力を頂いた。衷心より感謝申し上げます。

2025年4月

編著者 住本克彦



# 巻頭言

これからの時代を生きる子供たちに求められるものとして、「課題探究力」や「情報活用能力」等の資質能力が不可欠といわれている。「教員の働き方改革」「教員不足」という喫緊の課題解消が言われる一方、「教育の資保証」というのも重要な課題である。「教育は人なり」という言葉もあり、これは論語に出てくる言葉で、「人として正しく信頼できる人の話は強く言わなくても聞かすが、人として信頼できない人の話は強く言っても命令しても誰も聞かない」という意味である。本学も、「教員の資質能力の向上を目指す大学」をその特色とし、豊かな人間性と確かな実践力を有し、変化の激しい社会においても新たな教育を創造でき、学び続ける教員（継続的に専門性を高め続けることができる教員）を養成することを目指している。こうした教員こそ子供たちの「課題探究力」や「情報活用能力」等の資質能力を育てられるものと確信している。

この教員の資質能力を高める点から、本書が発刊されることの意義は大きい。読者諸氏は、本書からの学びを通して、生徒指導の意義について理解した上で、教育現場における様々な秀逸な実践に触れ、子供たちが自己存在感を実感し、自己指導力が培われるような支援・指導の在り方を身に付けてほしい。さらには、進路指導やキャリア教育の意義について理解したうえで、ガイダンスやカウンセリング等としての支援や指導の在り方についての理解を深め、読者自身のキャリアについてもその意識を高めることに結び付けることができる。つまり、本書の学修から、読者の皆さんが将来教員となる身においての専門性や実践力を高める礎を築くことになり、生徒指導の理念や長期的展望に立った人間形成を目指す進路指導、社会的・職業的自立に向けた基礎を育むキャリア教育の考えやその指導法を理解することができるのである。

急激に変化していく激動の社会の中にあって、これからの社会の変化を見極めつつ、自らの教育実践についてその在り方を常に見直し、改めるべきは改めていく。この意味でも学び続ける教員となるべく、本書を手にし、学びを進めてほしい。

本書では、教育の現場を熟知した執筆者が各章を担当し、理論と実践がバランスよく構成されている。したがって、理論を踏まえた上で、実践知に触れることで実践的な学びも身に付けることができるように工夫されている。以下は具体的な内容である。

「第1章 生徒指導・進路指導とは何か」では、生徒指導・進路指導は、学校教育の中でどのような位置付けなのか、どのような歴史があるのか、どのような考え方を基本としているのか等について考えていく。「第2章 生徒指導と教育課程」では、生徒指導と各教科、道德教育、特別活動、総合的な学習（探究）の時間等との関連、生徒指導の意義について考える。「第3章 児童生徒理解の基本」では、児童生徒理解の基本について理解する。「第4章 生徒指導と教育

相談」では、生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方とその違いを理解する。「第5章 組織的な連携」では、学級担任、教科担任の立場や役割を考え、学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性について理解する。また、関係機関との連携の在り方について考える。「第6章 基本的な生活習慣・規範意識の育成」では、児童生徒の基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成等、日々の生徒指導の在り方を理解する。「第7章 校則・懲戒・体罰等」では、校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解するとともに、具体的な事例を通して指導の在り方について考える。「第8章 いじめ・暴力行為への対応」では、現在、学校で大きな課題となっているいじめと暴力行為等について、生徒指導上の課題の定義及び対応の視点について理解を深めるとともに、その対応について考えていく。「第9章 不登校とは」では、現在、学校のみならず、社会で大きな課題となっている不登校について、データに基づいて分析するとともに、指導の在り方について考える。「第10章 個別課題への指導と今日的な課題」では、個々の児童生徒の抱える個別課題、少年非行、携帯電話とインターネット利用の課題、性に関する課題、児童虐待問題、自殺等、学校現場における生徒指導の課題をまとめ、生徒指導の在り方について考えていく。「第11章 進路指導とキャリア教育」では、進路指導とは何か、キャリア教育とは何か、キャリア教育が求められるようになった背景をとらえ、進路指導・キャリア教育の意義、その指導の在り方（全教育活動を通して組織的指導体制・家庭や関係機関との連携等）を理解する。「第12章 多様な背景をもつ児童生徒への生徒指導・進路指導」では、多様な背景をもつ児童生徒への生徒指導・進路指導についての基本を、具体的な事例を通して学ぶ。「第13章 各校種における進路指導とキャリア教育の実際」では、各校種における進路指導とキャリア教育の実際について理解する。

このように、理論ばかりでなく、実践について具体的な事例等を多くあげており、教職を目指す学生の皆さんはもちろん、日々尊い教育実践を重ねておられる教員の皆さんにとっても意義深い書となっている。なお、編著者の住本克彦氏は、本学修士課程を修了し、常に、教育の理論と実践の融合を目指し、自らの教育実践学の構築のため、教育現場のニーズと実践性を踏まえた高度な教育研究を積み重ねてきている。その実践の姿勢は、本学の修士課程が目指す、人間力と教育力を兼ね備えた教員としてのあるべき姿に他ならない。

本書が、読者の皆さんにとって、有益なものとなることを期待し、巻頭の言葉とする。

2025年4月

前 兵庫教育大学学長 加治佐哲也

# 目 次

## 第1章 生徒指導・進路指導とは何か 1

- 1 生徒指導の意義と歴史 ..... 1
  - (1) 生徒指導の意義 1
  - (2) 生徒指導の歴史 3
- 2 生徒指導の教育観 ..... 4
  - (1) 児童生徒の「主体性」とその「かけがえのなさ」を重視する 4
  - (2) 児童生徒の「成長を促す生徒指導」「予防する生徒指導」を重視する 4
  - (3) 生徒指導は「臨床」の視点をもつことが大切である 4
- 3 これからの生徒指導が目指すもの ..... 5
  - (1) 教科の指導と生徒指導の一体化を目指す 5
  - (2) チーム支援による生徒指導体制を構築・充実する 6
- 4 進路指導の意義と歴史 ..... 7
  - (1) 進路指導の意義 7
  - (2) 進路指導の歴史 8
- 5 これからの進路指導が目指すもの ..... 10
  - コラム 構成的グループエンカウンター 11
  - コラム 自己肯定感（自尊感情）の育成 12

## 第2章 生徒指導と教育課程 13

- 1 学習指導要領と生徒指導 ..... 13
  - (1) 児童生徒の発達を支える教育課程 13
  - (2) 児童生徒の発達を支える指導の充実 14
- 2 各教科における生徒指導の意義 ..... 15
  - (1) 多様な情報収集とチームの共通理解による指導の充実 15
  - (2) 教科の指導と生徒指導の一体化 16
- 3 道徳教育と生徒指導 ..... 17
  - (1) 道徳教育と生徒指導の相互関係 17
  - (2) 道徳科の授業と生徒指導 17
- 4 特別活動、総合的な学習の時間と生徒指導 ..... 19
  - (1) 特別活動と生徒指導 19
  - (2) 総合的な学習の時間と生徒指導 21
- コラム 生徒指導提要 22

## 第3章 児童生徒理解の基本 23

- 1 生徒指導における児童生徒理解の重要性 ..... 23
    - (1) 児童生徒を多面的・多角的に理解する 24
  - 2 児童期の心理と発達 ..... 24
    - (1) 道徳性の発達 25
    - (2) 自信のつまずき 26
  - 3 青年期の心理と発達 ..... 27
    - (1) 青年期の親子関係 27
    - (2) 自己に関する悩み 27
    - (3) 友だち関係 28
  - 4 生徒指導の個人資料の収集・活用 ..... 29
    - (1) 個人資料の収集の方法 29
    - (2) 個人資料の活用 29
- コラム アセスメント 31

## 第4章 生徒指導と教育相談 33

- 1 教育相談の意義 ..... 33
  - (1) 教育相談の目的 33
  - (2) 教育相談の特質と生徒指導の関係 34
- 2 教育相談体制の構築 ..... 34
  - (1) 生徒指導体制 35
  - (2) 教育相談体制 35
  - (3) 教育相談活動の全校的展開 36
- 3 教育相談の進め方
 

—生徒指導と一体となったチーム支援— 39

  - (1) ケース会議を開催する 39
  - (2) 課題の明確化と目標を共有する 39
  - (3) 支援計画の作成と支援チームの編成を行う 40
  - (4) 支援経過において留意すること 40
  - (5) 状況の点検・評価に基づいて、支援の終結・継続の判断をする 40
- 4 教育相談の留意点 ..... 41
 

コラム カウンセリング・マインド 42

## 第5章 組織的な連携 43

- 1 「チーム学校」が求められる背景 ..... 43
  - 2 「チーム学校」による生徒指導体制 ..... 44
    - (1) 生徒指導体制の構築に向けた基本的な考え方 44
    - (2) 「チーム学校」による生徒指導体制の構築 45
  - 3 「チーム学校」による進路指導体制 ..... 46
    - (1) 進路指導体制の構築に向けた基本的な考え方 46
    - (2) 「チーム学校」における進路指導体制の構築 47
  - 4 危機管理体制 ..... 47
    - (1) リスクマネジメント 47
    - (2) クライシスマネジメント 48
    - (3) 関係機関との連携 49
  - 5 守秘義務と説明責任 ..... 49
    - (1) 守秘義務の重要性 49
    - (2) 説明責任の意味と重要性 50
- コラム スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー 52

## 第6章 基本的な生活習慣・規範意識の育成 53

- 1 基本的な生活習慣の確立とその課題 ..... 53
  - 2 校内規律の指導における基本 ..... 56
  - 3 各校種毎の指導の実際と留意点 ..... 59
    - (1) 小学校の生徒指導体制 59
    - (2) 中学校の生徒指導体制 59
    - (3) 高等学校の生徒指導体制 60
    - (4) 留意点 60
  - 4 学校・家庭・地域の連携 ..... 61
- コラム ヤングケアラー 62

## 第7章 校則・懲戒・体罰等 63

- 1 校則の運用とその見直し ..... 63
  - (1) 校則 63
  - (2) 校則の内容 64
  - (3) 校則の運用 64
  - (4) 校則の見直し 64

2	懲戒と体罰	65
	(1) 児童生徒に対する懲戒	65
	(2) 体罰	67
3	不適切指導	69
4	体罰等による教員の懲戒処分	70
5	出席停止制度の運用	71
	コラム ブラック校則	72
	特別コラム 震災後の生徒指導・教育相談の実践	73
<b>第8章 いじめ・暴力行為への対応</b>		<b>77</b>
1	いじめ問題の現状と課題	77
	(1) いじめの現状	77
	(2) いじめ防止対策の課題	78
2	いじめに関する生徒指導の重層的支援構造	80
	(1) 「提要改訂版」が示すいじめ防止対策の方向性	80
	(2) 2軸3類4層の重層的支援構造	80
	(3) 「社会に開かれたチーム学校」によるいじめ対策	81
3	暴力行為の現状と背景及び対応の方向性	82
	(1) 暴力行為の現状	82
	(2) 低年齢における暴力行為の急増の背景	82
	(3) 暴力行為への対応指針	83
4	暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造	83
	(1) 生徒指導の重層的支援構造に即した暴力行為への対応	83
	(2) 暴力行為の防止につながる発達支持的生徒指導の具体化	84
	コラム いじめ防止対策推進法	86
<b>第9章 不登校とは</b>		<b>87</b>
1	不登校の定義	87
2	不登校の変遷	88
3	不登校の背景や原因	89
4	不登校の子供の意識より	90
5	今後に求められること	92
	(1) 学校外の居場所	93
	(2) 学校外にある「学校」	94
	コラム 不登校の保護者支援	96

## 第10章 個別課題への指導と今日的課題 97

- 1 少年非行対応の基本的視座と実際 ..... 97
    - (1) 非行少年とその分類 97
    - (2) 少年非行への学校対応の基本 98
    - (3) サポートチームとの協働的対応 99
  - 2 携帯電話やインターネット関連法規と基本方針 ..... 100
    - (1) 教育と啓発 100
    - (2) インターネットによる事故・事件回避のための学習 100
    - (3) 具体的な対応策 101
  - 3 性犯罪・性暴力対策の基本方針 ..... 101
    - (1) 「生命（いのち）の安全教育」による未然防止教育の展開 101
    - (2) 早期発見と対応 102
    - (3) 相談体制と支援 102
    - (4) 保護者との連携 102
  - 4 児童虐待の関連法規と課題予防的生徒指導 ..... 102
    - (1) 児童虐待とは 102
    - (2) 児童虐待の関連法規 103
    - (3) 児童虐待を未然防止，早期発見するための課題予防的生徒指導 103
  - 5 自殺予防に関する重層的生徒指導 ..... 104
    - (1) 早期発見と対応 104
    - (2) 信頼関係の構築と相談窓口の設置 105
    - (3) 教育プログラムの導入 105
    - (4) 保護者や地域との連携 105
    - (5) 教職員の研修 105
- コラム 子供の貧困問題と地域の取組 106

## 第11章 進路指導とキャリア教育 107

- 1 進路指導・キャリア教育の意義 ..... 107
  - (1) キャリア教育の定義 107
  - (2) キャリア教育が求められる背景と意義 108
- 2 進路指導・キャリア教育の展開過程 ..... 110
  - (1) 進路指導とキャリア教育の関わり 110
  - (2) 教育振興基本計画におけるキャリア教育の位置付け 112
- 3 進路指導・キャリア教育の展望 ..... 113
 

コラム 特別支援教育 116

## 第12章 多様な背景をもつ児童生徒への生徒指導・進路指導 117

- 1 発達障害に関する理解と対応の実際 ..... 117
  - (1) 発達障害の特性の理解 118
  - (2) 発達障害に関する対応の実際 119
- 2 精神疾患に関する理解と対応の実際 ..... 121
  - (1) 主な精神疾患 121
  - (2) 精神疾患に関する対応の実際 122
- 3 健康問題に関する理解と対応の実際 ..... 124
  - (1) 健康問題に関する理解 124
  - (2) 健康問題に関する対応の実際 125
- コラム LGBTQ 126

## 第13章 各校種における進路指導とキャリア教育の実際 127

- 1 小学校における進路指導・キャリア教育の実際と課題 ..... 127
  - (1) 自己理解・自己肯定感を育成する 127
  - (2) 体験活動を重視する 128
  - (3) 小学生における基礎的・汎用的能力のねらい 129
  - (4) 小学校における進路指導・キャリア教育の課題 130
- 2 中学校における進路指導・キャリア教育の実際と課題 ..... 130
  - (1) キャリア教育と進路指導 130
  - (2) キャリア教育プログラム（基礎的・汎用的能力の育成）131
  - (3) 職場体験学習 132
  - (4) 中学校における進路指導・キャリア教育の課題 133
- 3 高等学校における進路指導・キャリア教育の実際と課題 ..... 133
  - (1) キャリア発達の特徴を踏まえた取組 134
  - (2) 探究学習とキャリア教育 134
  - (3) キャリアガイダンス，キャリア・カウンセリング 134
  - (4) 大学・専門学校，企業訪問 135
  - (5) 高等学校における進路指導・キャリア教育の課題 135
- コラム キャリア・パスポート 136

索引 137

## 第1章

# 生徒指導・進路指導 とは何か

「生徒指導」と「進路指導」は、どちらも「在り方」や「生き方」にかかわる指導であり、「自分の人生をいかに生きるか」の指導が「生徒指導」「進路指導」の中核にある。本章では、こういった観点に立ち、前半では、生徒指導についての基本を「生徒指導提要（改訂版）」を中心に、後半では進路指導についての基本を概観したい。



## 1 生徒指導の意義と歴史

### （1）生徒指導の意義

まず生徒指導という文言であるが、これは一般的には第2次世界大戦直後のいわゆる教育改革の中で中学校、高等学校の教育方法としての導入の際、「ガイダンス：guidance」の訳語として使われたといわれている。「生徒指導の手びき」（文部省、1965）の発刊後、生徒指導の文言は定着していった。

生徒指導の定義については、2022（令和4）年に改訂された「生徒指導提要」（以下、「提要改訂版」とする）では、生徒指導は、学習指導と並んで学校教育において重要な意義をもつものとされ、その定義や目的が示されており、以下「提要改訂版」を中心に通観したい。

そこではまず、学校教育の目的を「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」（教育基本法第1条）を期することであるとし、また、「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」（同法第2条第2号）ことが目標の一つとしてあげられているとしたうえで、学校教育の目的やその達成に寄与する生徒指導を定義して、「提要改訂版」では次頁のとおりとしている。

**生徒指導の定義**：生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることが  
できる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと  
である。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助  
を行う<sup>1)</sup>。

1) 文部科学省『生徒  
指導提要（改訂版）』  
2022, p.12.

そして、生徒指導を「機能」としてとらえ、児童生徒が自身を個性的な存在  
として認識し、自身のよさや可能性も認めた上で、それらを伸ばさせるととも  
に、社会的資質や能力を身に付けることを支える働きであるとしている。また、  
その目的についても同「提要改訂版」の中で、以下のとおり示している。

**生徒指導の目的**：生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の  
伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け  
入れられる自己実現を支えることを目的とする<sup>2)</sup>。

2) 1) と同じ, p.13.

そしてこの生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が自己指  
導能力を身に付けることが重要であるとしている。さらに、児童生徒の自己指  
導能力の獲得を支える生徒指導では、多様な教育活動を通して、児童生徒が主  
体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重  
要性等を実感することが大切で、その際に留意する実践上の視点を4点あげて  
いる。① 自己存在感の感受、② 共感的な人間関係の育成、③ 自己決定の場の  
提供、④ 安全・安心な風土の醸成、である<sup>3)</sup>。特に①については、ありのまま  
の自分を肯定的に捉える自己肯定感や、他者のために役立った、認められたと  
いう自己有用感を育むことが極めて重要であるとしている。教員が子供を認め  
ることの大切さについては、以下を参考にしてほしい。

3) 1) と同じ, pp.14-  
15.

#### 教師が子供を認めることの大切さ

ここに著者、島秋人氏が「是非、教師に読んでほしい」と願ひ著した「歌集」がある。  
『遺愛集』である。死刑囚であった島秋人氏（33歳で死刑執行）が、獄中から中学時代の  
恩師に御礼の手紙を書いた。子供の頃、小学校でも中学校でも病弱な上、成績は最も低く、  
周りから疎んじられると共に、教師から認められることもなく性格がすさみ、少年院に入  
ることもあった。1959（昭和34）年のある夜、飢えに耐えかね農家に入り金銭を奪い、  
その家の人を殺め、死刑囚となった。中学の頃の、唯一の認められた記憶が忘れられず、  
獄中からその先生に手紙を出したのである。それもただ一言の「褒め言葉」（「絵は下手だ  
けど、クラスで一番構図が良い」）であったが、凍り付いた彼の心にかすかに残る一片の  
希望の光であったからだ。その後恩師と文通が始まり、その中で短歌に接し、彼自身の情  
感は広がり、短歌の才能が開かれると共に（1963年「毎日歌壇賞」受賞）、彼の心は清  
められていった。教師の子供への一言の「褒め言葉」「認める言葉」が子供たちの心には  
いつまでも残り、その人生に大きく影響するのである。

以下は、著者島秋人氏の言葉である。「教師は、すべての生徒を愛さなくてはなりません。  
一人だけを暖かくしても、一人だけ冷たくしてもいけないのです。目立たない少年少  
女の中にも平等に愛される権利があるのです。むしろ目立った成績の優れた生徒よりも、  
目立たなくて覚えていなかったという生徒の中に、いつまでも教えられたことの優しさを  
忘れないでいる者が多いと思います。忘れられていた人間の心の中には一つのほめられた

という事が一生くり返されて思い出されて、なつかしいもの、たのしいものとしてあり、  
 続いて残っているのです」\*

\* 島 秋人『遺愛集』東京美術選書9, 1974, p.211.

## (2) 生徒指導の歴史

近代日本の学校教育は、1872（明治5）年の「学制」に始まる。「学制」には児童生徒が守るべき規律や規則についての定めはないが、文部省（当時）は1873（明治6）年に、「小学生徒心得」を刊行した。これをきっかけに学校における「規律」が明文化された。その後1890（明治23）年の「教育ニ関スル勅語」の発布は、儒教的道徳に基づく忠君愛国（君主に忠節を誓い、自国を愛すること）の精神を身に付けさせることが指導の目標とされ、こうした指導が戦前における生徒指導実践の礎であった。明治20年代初めには、ドイツのヘルバルト派教育学（教育の目的を「道徳的品性の陶冶」にあるとし、そのための教育過程を「管理」「教授」「訓練」という3機能に分けた）が我が国に導入され、明治20年代の学校教育の改革に波及したばかりではなく、今日の生徒指導の考え方やその実践へ多大な影響を与えたとされている。そして、明治30年代の教科書の検定強化、教科書の国定化等によって、教育の在り方は「全体主義」傾向を強めていくのである。我が国の日露戦争での勝利後は、「個」に注目する教育が振興し、大正期の教育改革につながっていく。その後昭和になり、大戦を迎える中で、「全体主義」を強めていくことになる。

第2次世界大戦後は、特にアメリカの影響を強く受けることとなり、教育の理論、内容、そして方法等、然りであった。既述の通り、生徒指導の文言は、「ガイダンス：guidance」の訳語として使われたとされている。（当初は生活指導の文言が使用された）。「生徒指導の手びき」（文部省、1965）の発刊後は生徒指導の文言は徐々に定着していく。

「生徒指導の手びき」によって生徒指導の基本的な考え方が浸透していったといえよう。その冒頭には「生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つである<sup>4)</sup>」と明記され、生徒指導が機能論の立場に立つことが明記された。また、生活指導との関係については「『生活指導』という用語は現在かなり多義に使われているので、本書では『生活指導』とした<sup>5)</sup>」と述べられている。

2010（平成22）年に刊行された「生徒指導提要」は、その前身ともいえるべき「生徒指導の手びき」及び「生徒指導の手引（改訂版）」と比べると、目指す人間像として、個人としての人格を高めることとともに、公共心等の社会的資質の育成が重視されている。また、「提要改訂版」においては、生徒指導の構造

4) 文部省「生徒指導の手びき」1965.

5) 4) と同じ.

を「発達支持的生徒指導」「課題予防的生徒指導」「困難課題対応的生徒指導」という三層（3類）でとらえている点、問題対応に終始するのではなく、積極的な教育活動としての生徒指導の在り方が目指されている点、さらに、インターネットや携帯電話に関わる課題等、今日的な課題を適切に取り上げ、社会環境の変化に対応した指導についても言及しており、校内研修会、各自治体主催の研修会等、今後様々な場での一層の活用が望まれている\*1。

\*1 「生徒指導提要」と「提要改訂版」との違いについて、新井は、「生徒指導提要」と「提要改訂版」を比較すると、「児童生徒を主語にし、『自身を個性的存在として認め、自己に内在しているよさや可能性に自ら気づき、引き出し、伸ばすと同時に、社会生活で必要となる社会的資質・能力を身に付ける事を支える働き（機能）』であると、その目的が明示されているところに違いがみられます」と述べている。

新井肇編著『支える生徒指導』の始め方－「改訂・生徒指導提要」10の実践例－教育開発研究所、2023、p.23。

6) 佐藤修策『不登校の教育・心理的理解と支援』北大路書房、2005、p.12。

7) 梶田毅一『自己意識論集V－内面性の心理学－』東京書籍、2021、p.82。

## 2 生徒指導の教育観

### (1) 児童生徒の「主体性」とその「かけがえのなさ」を重視する

佐藤は「生徒指導の基礎は一人ひとりの生徒を人間として尊重することにある。かけがえのない一人の人格として大事にし、個性の成長発達を図ると共に、社会生活を円滑に進めていける資質、能力、態度を育成することである<sup>6)</sup>」としている。ここでいう「主体性」については、梶田が「自分自身の内部に行為の源泉と判断の基軸があり、そうした源泉や基軸がその人の内面世界に、その人にとっての必然性のある強く深い根柢を持つこと<sup>7)</sup>」と明示している。

つまり、子供には必ずその子のよさがあり、そこを見つめ続けることで短所も含めてその子を丸ごと認めることにつながるのである。

### (2) 児童生徒の「成長を促す生徒指導」「予防する生徒指導」を重視する

これからの生徒指導担当者には、開発的カウンセリング\*2に精通し、実践できることが求められるといえよう。

### (3) 生徒指導は、「臨床」の視点をもつことが大切である

この点では、生徒指導はチーム支援を重視して進めていくことが大切であり、すなわち専門家を含めたチーム学校による生徒指導体制を重視していくことが重要であるということである。また、「提要改訂版」では、「個別の課題に対する生徒指導」が解説されており、この点でも、「臨床」の視点や教育相談の活用は不可欠と言っても過言ではない。

また、上地は、「優れた教師はカウンセラーの資質を有する」として教師カウンセラーの基本的教育理念として「① 人間の本性は善である。② 絶えず学

## コラム

## 自己肯定感（自尊感情）の育成

最近、「ヘリコプターペアレンツ」という言葉を耳にすることが増えてきました。これは、言葉の由来通り、子供が成長していく過程で、できるだけ困難（失敗）に直面しないように、保護者が子供にまわりついて、過度な注意喚起を促していく状態をいうようです\*。つまり、保護者が子供に対してなるべく失敗をしないように、保護者が子供の意志を尊重せず、保護者の立場で物事を効率的に動かしていこうとする人為的な操作ともいえるかもしれません。このような状態では、子供が困難（失敗）を体験し、そこから気付きや学びを得て立ち上がろうとする成長過程を、保護者が妨害したり、奪ったりしているとも考えられます。

私は現在、スポーツ科学の研究者兼教員で、かつてはアルペンスキーの選手でしたが、現在も青少年のアルペンスキー選手の育成に携わっています。そこで、スキーの上達に、「転ぶ」感覚は必須であると感じています。スキー操作を誤ってしまうと転んでしましますが、転んだ本人は転ぶことにより、体重のかけ方やバランスの取り方等のスキー操作全体における「塩梅」を学んでいきます。つまり、「失敗（転ぶこと）」をすることで、「成功（パフォーマンスレベルの向上）」へのヒント（手掛かり）を得ていきます。結果として、困難克服体験（成功体験）を増やすこと（場数をこなすこと）につながり、「やればできるんだ」という自己肯定感が累積的に育まれていくと思われれます。

私自身、アメリカとカナダの大学院生であった頃、大学院入学や就職準備のための小論文を書くトレーニングを受けていたことがあります。その時に感じたのは、心に響く小論文は、困難に直面した際に、どのようにその局面を乗り越えて、現在に至っているかというその人なりの唯一無二の成功体験が述べられているということでした。一方、私自身、教員という立場で現在、小論文の書き方について学生に情報提供する立場にあるので、様々な小論文を閲覧する機会があります。その際に、今もなお日本の大学受験や就職における小論文の内容の多くは、志願者のよい面ばかりを煌びやかに述べているような感じを受けます。これは結果だけを述べている印象を受け、どのような過程で成長してきたか（どのように困難を克服し成功につなげてきたか＝唯一無二のオリジナル体験）という最も本質的な部分（本人の個性が際立つ部分）が欠如しているようにも感じます。そこで、私自身のご縁のあった学生には、たとえ少しの達成体験しかなかったとしても、小さな喜びのあった体験から書くことを勧めています。そのことにより、学生自身が自己の成長を振り返ることになり（これでよかったのだという肯定的回想→喜び・満足感の増大→自己成長の気付き）、自己肯定感を促すことにつながっていると感じています。

時の一点で考えると、学生における「ある失敗」は一時的な困難となるかもしれませんが、保護者や教員はその困難に介入し過ぎず、長い目で向き合い（視座や視点を高く、視野を広くして、その困難にある背景や経緯等を熟考しながら）、段階的に改善や修正を行うことで（本人自身の気付きを促す）、困難（失敗）が成功への大きな架橋へと切り替わっていくのではないのでしょうか。そして、その成長過程において、学生は自らの体験から自己肯定感を育てていくと思います。誰しもが人生のバッテリーボックスに入れるのは1人のみです。成長過程にある各学生が人生のバッテリーボックスに入るまでの準備段階において、私たち教員は、忍耐強く愛情をもって学生に接し、励ましの言葉を掛けながら（小さな成功体験を繰り返し褒めることで、本人の自己肯定感を後押しする）、大きな心で見守る度量が必要なのではないのでしょうか。

\* Amy Morin, *13 Things Mentally Strong Parents Don't Do*, William Morrow, 2017.